



臨床研究部からのお便り

手足口病が流行しています

第15回

今年は5月から真夏日を記録する日がみられていましたので、夏が来るのが早いのかなと思っていましたが、その後は例年とあまり変わらないようです。一方では、いわゆる夏風邪のひとつである、手足口病も5月中旬から全国的に患者が増え始めて、現在三重県でも急速に流行が広がっています(図)。

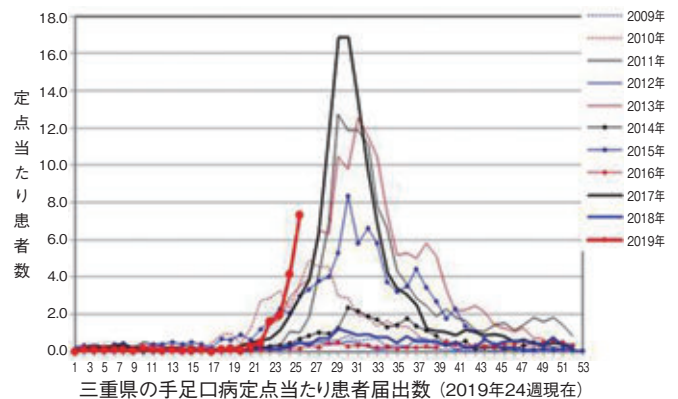
手足口病というのは、発熱とともに、口周囲や口腔粘膜、手掌、足底や足背などの四肢末端に2~3mmの水疱性発疹が出現します。時に肘、膝、臀部などにも出現することもあり、特に最近流行することの多い、コクサッキーウイルスA6による場合には、手、足、口だけではなく、背中やお尻、大腿部に水疱疹がでることもあります。口腔粘膜では小潰瘍を形成することもあり、これによる口内痛の為に食事が取れなくなったりすることもあります。発熱は約1/3で見られますが軽度であり、38℃以下のことが多いとされています。通常は3~7日の経過で消退し、水疱が痂皮を形成することはありません。自然治癒傾向にあって、ほとんどは予後良好です。この疾患はエンテロウイルス属に含まれる複数のウイルスによって起こりますが、上述のコクサッキーA6以外にも、コクサッキーA16やエンテロウイルス71によっても起こります。エンテロウイルス71による手足口病の場合には中枢神経合併症を起こすことがあって注意が必要ですが、今シーズンは、これまでと違って、このウイルスはあまりみられていません。

夏風邪というと、あとヘルパンギーナと咽頭結膜熱という疾患が有名ですね。咽頭結膜熱はアデノウイルスによる感染症で、発熱、咽頭発赤、結膜充血がみられる疾患ですが、すでに例年と同様に流行は始まっており、そろそろピークにさしかかるところです。現在手足口病が急速に増加していますが、ヘルパンギーナが、そのあと流行してくる模様で、夏風邪三兄弟は、咽頭結膜熱、手足口病、そしてヘルパンギーナという順番でやってくるようです。ちなみに、ヘルパンギーナは、突然の発熱に続いて咽頭粘膜の発赤が顕著となり、

口腔内、主として軟口蓋から口蓋弓にかけての部位に小水疱ができます。小水疱はやがて破れ、浅い潰瘍を形成して痛みがあるものですから、こどもは不機嫌になったり、拒食、哺乳障害、それによる脱水症などを呈することがありますので、発熱とともに食べ物を受け付けられないようであれば要注意です。

これらの三つの疾患の特徴は、いずれも無症候性感染者(ウイルスに感染しても症状が出ない人)が多いけれども、この症状の出ない人から周りに感染すること。また、ウイルスは咽頭から3~4週、便中には5~6週以上検出されることが知られており、感染期間は基本的に長いということです。もちろん、最大の感染性は急性期にあると考えられ、より便において感染力が強いですが、症状が無くともウイルスを排出している人がたくさんいるということを考えれば、特に周りで流行していかなくとも、やはり、予防には手洗いが重要ですね。
(臨床研究部長 谷口 清州)

図. 三重県における手足口病患者報告数



三重県感染症情報センターより引用
(<http://www.kenkou.pref.mie.jp/report.html>)



Honda HEAT来院!

三重病院には、毎年さまざまなボランティアの皆さんが演奏やダンス等を披露に来てくださいます。その中で、昨年来てくださったHonda HEAT(本田技研ラグビー部)の皆さんが、今年も遊びに来てくださいました。この活動はジャパンラグビートップリーグのチャリティー活動の一環で、病気と闘う子どもたちに向けた施設訪問活動として、6月5日(水)に1病棟(整形外科)・2病棟(小児科病棟)・5病棟(重症心身障害病棟)・通所支援事業で行われました。

昨年から継続して開催している行事とのことで、患者さんの中には朝の4時半からドキドキ・ワクワク・ウキウキで起床して、選手たちの来院を心待ちにしている方もいたほどでした。選手6名と広報の方が試合本番で着るユニホーム姿で登場すると、その逞しい姿に患者さんやご家族は「すご〜い」と見とれていました。

5病棟(重症心身障害病棟)ではボール送りゲームを、1病棟(整形外科)では一緒に写真撮影を、2病棟(小児科病棟)では「壁にぶつかった時にどう乗り越えてきたか」の講話を中心に、HEATの選手たちが患者さんたちと一緒に遊び、楽しみながら、「元気」と「勇気」をくださいました。選手の皆さんと過ごした時間は、入院患者さん、利用者さん、ご家族、そして病院職員にとっても、大変楽しい時間でした。Honda HEATの皆さん、本当にありがとうございました。また来年も来てくださることを期待しています。

(主任児童指導員 丸澤 由美子)

通所支援事業

通所支援事業のひとコマ

6月中旬に梅雨入りし、季節の草花や虫、気温等、外の雰囲気を感じに出かけられることが少なくなりました。それでも「梅雨時期の空気感や草花のにおいを味わいたい!」と、屋外でシャボン玉をすることにしました。通所支援事業の玄関には大きな屋根があり、雨や風をしのぐことができます。雨が降る前のおい風を感じたり、シャボン玉で泡まみれ?! になったりしながら、梅雨の雰囲気を楽しんでいます。また天気の良い日はお散歩へ行き、「びわなってるかな?」と草花を観察したり、暑さを実感したりしています。

天気の良い日は気温や気候を楽しみ、雨の日は雨の香りや梅雨の雰囲気を楽しみ...と、毎日の生活で楽しみを探しています。「梅雨はジメジメしてイヤだなあ」と思ってしまうがちですが、そのジメジメした雰囲気も楽しめる毎日は、とって素敵だと思いませんか?

ぜひ、通所支援に遊びに来てください。一緒に「今日の楽しみ」を探しに行きませんか?

(主任児童指導員 丸澤 由美子)

